

スタジアム周辺の雰囲気形成要素—柏市日立柏サッカー場を事例に—

杉野 弘明（地球科学専攻）

1. 目的

本研究の目的は、柏市日立柏サッカー場を事例に観戦者のアクセス道路とその周辺の地物の分析を通じてスタジアム周辺の雰囲気形成要素を明らかにすることである。

2. 研究手法

まず、観戦者の柏駅から柏スタジアムまでの主要アクセス道路である「レイソルロード」を中心に柏レイソルに関する地物を記録した(図1)。具体的には、GPS と GPS の時刻に同期させたデジタルカメラをフィールドワークに用いて、柏レイソルに関係すると思われる地物を撮影し、トラックから画像データ時刻の位置情報を取得し、写真から判別した属性を付与することで、位置情報付きのデータベースとした。以上を ArcMap で読み、地物分布の特徴を分析した。

3. 結果・考察

対象地域における柏レイソルに関する地物は、合計 112 であった。最多地物はフラッグ(38ヶ所)で、ポスター(37ヶ所)がそれに次いでおり、レイソルに関連する地物の多くは「レイソルロード」沿いに立地していた(図1)。とくに、三小通り商店街での街灯

にフラッグを掲げる取り組みは特徴的であった。一方、大看板・モニュメントは駅周辺に集中しており、一部は「レイソルロード」までの道標の機能も果たしていた。試合当日のみ出現する要素として、「レイソルロード」における観戦者の人ごみ、商店主などが店舗独自で掲げるフラッグ、柏レイソルサポーターへのサービスを店前で広告する飲食店員、入口にて応援歌をスピーカーから流す飲食店、試合後に試合関連記事を配る新聞販売店員などがみられた。

「レイソルロード」やその他の駅周辺地域では熱心にクラブを支援する店舗があった。また、三小通り商店街では地域とクラブとの連携が雰囲気の形成につながっていた。「レイソルロード」沿いでは、商業・業務用地の割合が高く(図2)、レイソル関連の地物の特性からも商店主や商店街設置のものなど商業との結びつきの強さが指摘でき、こうした関係性が雰囲気形成に重要であるといえる。



図1 「レイソルロード」周辺の雰囲気構成要素(2010年)
(現地調査および ESRI データコレクションより作成)

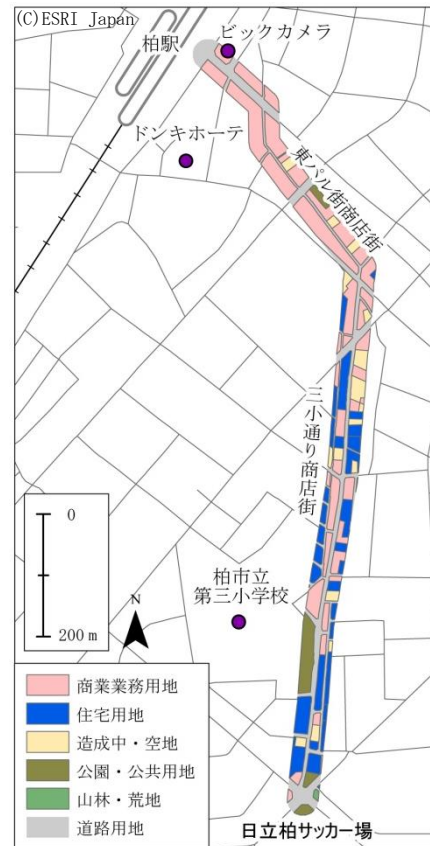


図2 「レイソルロード」沿いの土地利用
(2000年)

(数値地図 5000(土地利用)および
ESRI データコレクションより作成)